

〈建設キャリアアップシステム登録推進・窓口開設情報 ⑳〉

2018年12月6日

東京土建本部建設キャリアアップシステム担当発

1)「現場登録」のカードリーダーを振興基金が紹介

システムに現場で就業を日々登録のために運用する接続カードリーダーが随時、基金のHPにおいて公開されていますが、11月5日に記載内容が更新され、4機種の対応OS、メーカー、販売開始予定がわかります。特に、2018年12月と2019年1月の発売予定機種については、市場価格の目安、外形寸法、接続方式等の詳細情報を紹介しており、ケーブルのもので約1万円、ブルートゥースのもの約3万円等の価格となる模様。今後も順次、情報が追加されていく予定とされています。

2)建設キャリアアップシステムの民間システムとの連携

労働局に雇用管理などを彷徨するためのシステムであるグリーンサイトなどの民間システムとCCUSとの連携の審査状況は、申請受付数20件(就業履歴登録機能アプリ開発のフェンリルを除く。)で、内訳は開発中が7件、書類審査済・契約手続中が4件、書類審査中が9件。提携の見通しは、1月以降におこなわれる予定です。

3)建設キャリアアップシステムの1月からの「限定運用」に向けた取り組み

システムへの現場就業履歴の登録については4月から「本運用」の計画ですが、これに先立ち1～3月の間、現場を限って「限定運用」が予定されています。工種別、規模、立地地域などの面で多様な計24現場で実施。建築・土木の新築工事(パターン1)、建築・土木の改修工事(パターン2)、住宅新築工事(パターン3)、住宅リフォーム工事(パターン4)の4パターンに区分していますが、大手ゼネコン14社、地域ゼネコン2社、ハウスメーカー1社、工務店2社が元請事業者として参加します(計19事業者)。

関係団体や各事業者へ個別に説明・調整しつつ、11月15日に限定運用に参加する元請事業者が一堂に会して第1回説明会が開催され、東京土建からも2人が出席、今後も「限定運用」を成功させるため、24現場についての第2、第3回説明会が設定され、1・2月はゼネコンなどのパターン1・2区分の運用開始と不具合が発生した場合のシステム修繕、住宅建築工事となるパターン3・4区分は3月から運用開始としています。24現場は振興基金HPなどで公表されていますが、この現場の関係者は年内の登録申請を急ぐとされ、インターネットでの簡易な登録が必要です。上位会社からの指示に従って登録することになります。

(以上)